

異常気象のため工事が中断

平成28年12月末からの天候不順と翌年1月、2月の近年にない大雪による融水の影響で、敷地の地盤が想定を超えて著しく軟弱化し、杭打ち工事を行う大型重機の敷地への乗り入れが危険な状態となりました。

そのため、杭打ち工事の安全確保のため工事を中断し、敷地の表層地盤改良工事を4か月かけて実施することとなりました。



造成地盤より下に転石の存在が判明、杭打ち工事が延期

敷地の地盤軟弱化対策である表層地盤改良工事の実施中、造成地盤より下に杭打ち工事の障害となる転石の存在が分かりました。

そのため、表層地盤改良工事の完了後に詳しく調査したところ、杭打ち場所の約3分の2に当たる場所とごみピット設置場所の周辺の地中に大小の転石が多数存在していることが判明しました。

造成地盤より下の地中については、組合が平成25年5月に6か所のボーリング調査をしており、平成28年5月にも事業者によって12か所のボーリング調査がされましたが、組合の調査と同様に転石の存在は確認されませんでした。

地中の転石によって杭打ち工事ができないことから、杭打ち場所やごみピット周辺部の転石を取り除くための工法変更を検討し、

追加工事としてオールケーシング工法と呼ばれる転石を破碎・除去する工事を平成29年6月に着手し、9月に完了、中断していた杭打ち工事を9月末より再開し11月に完了しました。

また、工事費用と工程について事業者と協議した結果、転石の除去工事費が約6億円、工期は表層地盤改良工事とあわせて約1年の延長となる見通しになりました。



今後の施設整備予定

本施設は、平成31年3月に実質稼動、同年7月の竣工を目標としていましたが、地盤軟弱化対策や転石等を除去するための追加工事によって約1年の工期延長となる見通しで、今後は平成32年3月末にごみの全量受入れ、同年5月末の竣工を目標に施設整備を実施することとしています。